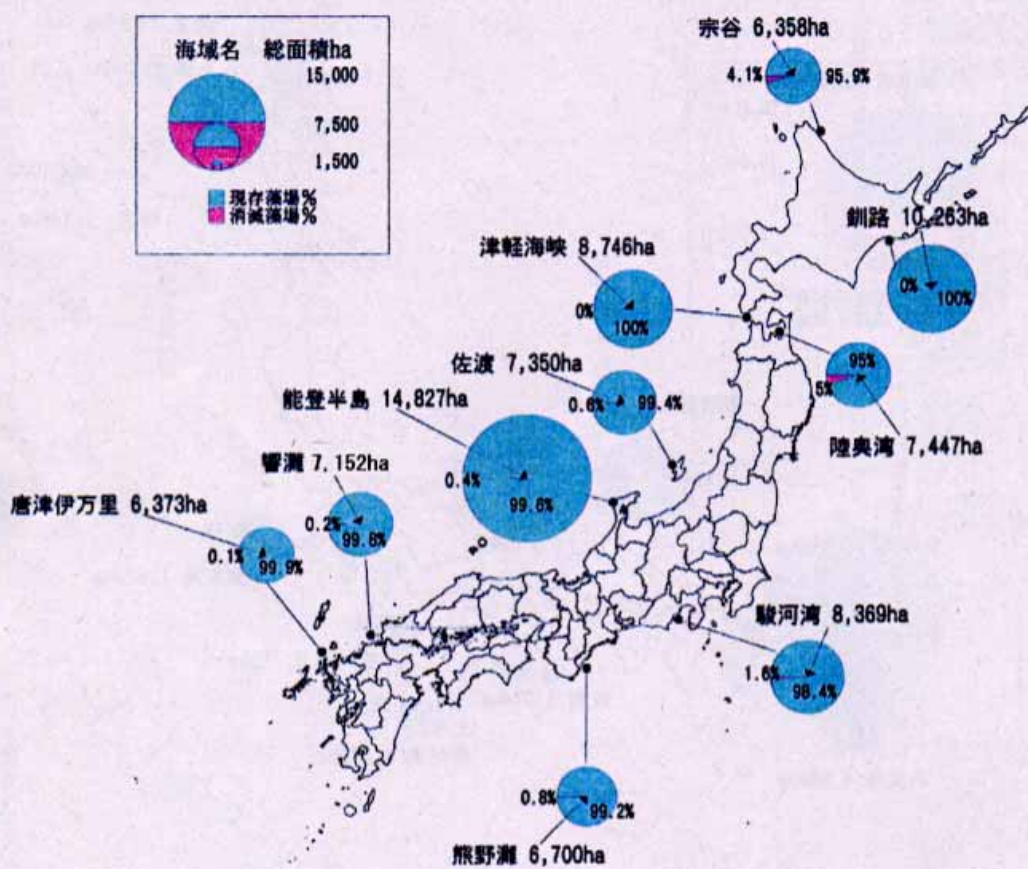


藻場分布主要海域における分布状況

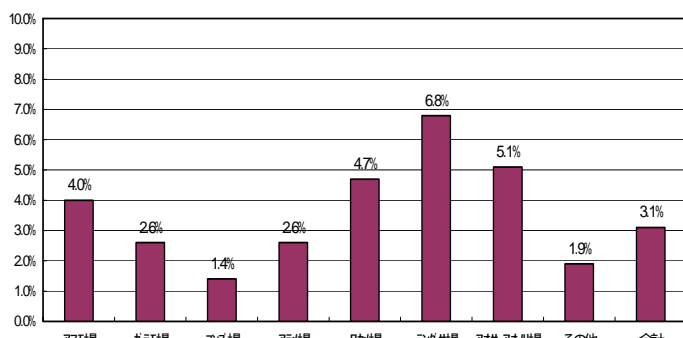
藻場の面積も減少傾向にあり、1970年代末から1990年代初めまでで3.1%消滅している。

藻場分布調査（藻場分布主要海域における分布状況） 第4回自然環境保全基礎調査

第4回基礎調査において確認された現存する藻場の総面積は201,212haであった。また、6,403haの藻場が前回調査時（昭和53年）以降に消滅した。



藻場面積の減少率



海域名	現存面積 (ha)	消滅面積 (ha)
能登半島	14,761	66
釧路	10,263	0
津軽海峡	8,744	2
駿河湾	8,238	131
陸奥湾	7,073	374
佐渡	7,306	44
響灘	7,137	15
熊野灘	6,646	54
唐津伊万里	6,366	7
宗谷	6,100	258

出典：環境省『第4回自然環境保全基礎調査「海域生物環境調査」(1994)』データより作成

海岸区分別延長の状況

日本の海岸線のうち、工作物が存在しない自然海岸は本土では5割を切っており、人工海岸化が進行している。

	第2回 S53	第3回 S59	第4回 H5	第5回 注1 H8
全国	32,170.21	32,471.85	32,778.88	33,573.81
自然海岸	18,967.17	18,402.08	18,105.65	17,660.33
半自然海岸	4,340.36	4,511.44	4,467.49	4,385.07
人工海岸	8,598.95	9,294.54	9,941.78	11,212.22
河口部	263.73	263.79	263.96	316.19

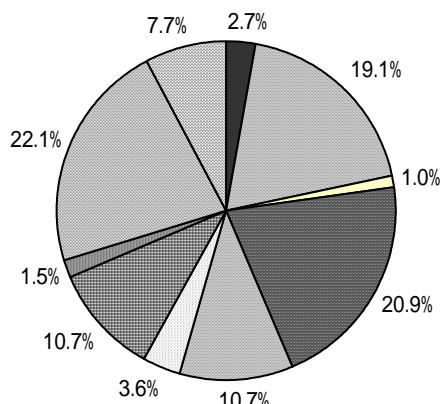
注1) 兵庫県は未調査。そのため兵庫県データは第4回調査時のデータを使用。

出典：環境省『第5回自然環境保全基礎調査「海辺調査」(1998)』データより作成

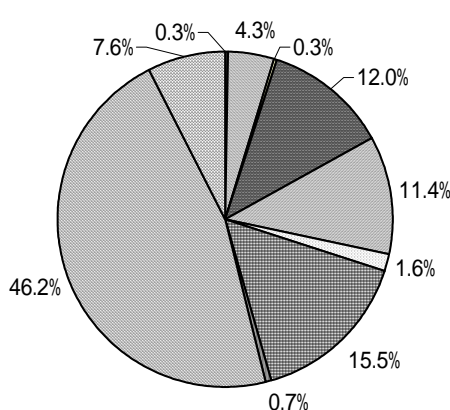
植生タイプ別国立・国定公園指定状況

国立・国定公園の配置特性を見ると、標高の高い奥山自然地域の自然植生やクマ、カモシカ等の大型哺乳類の分布域や高山蝶など山岳部に特有の動植物の分布域が比較的好く指定されているが、低山や丘陵地から平地にかけて広がる里地里山や干潟等の沿岸域の生息・生育域にはあまり配置していない。

公園合計に対する植生別の指定状況

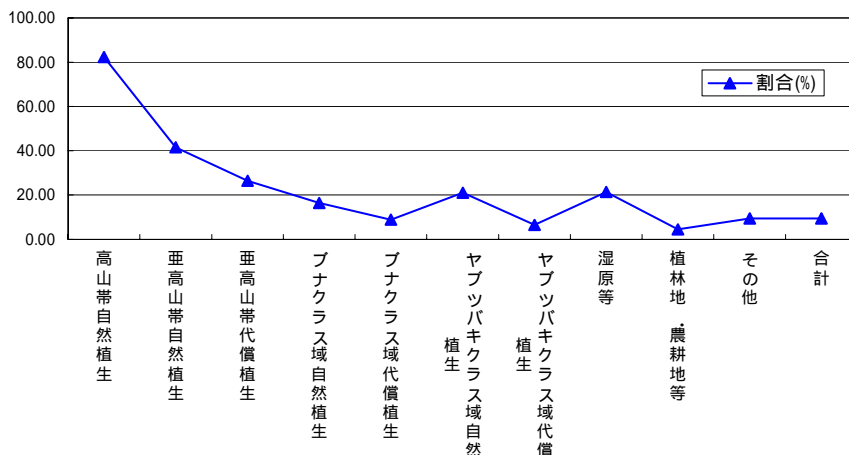


全国の植生別の状況



- 高山帯自然植生
- 亜高山帯自然植生
- 亜高山帯代償植生
- ブナクラス域自然植生
- ブナクラス域代償植生
- ヤブツバキクラス域自然植生
- ヤブツバキクラス域代償植生
- 湿原等
- 植林地・農耕地等
- その他

植生別の自然公園指定割合

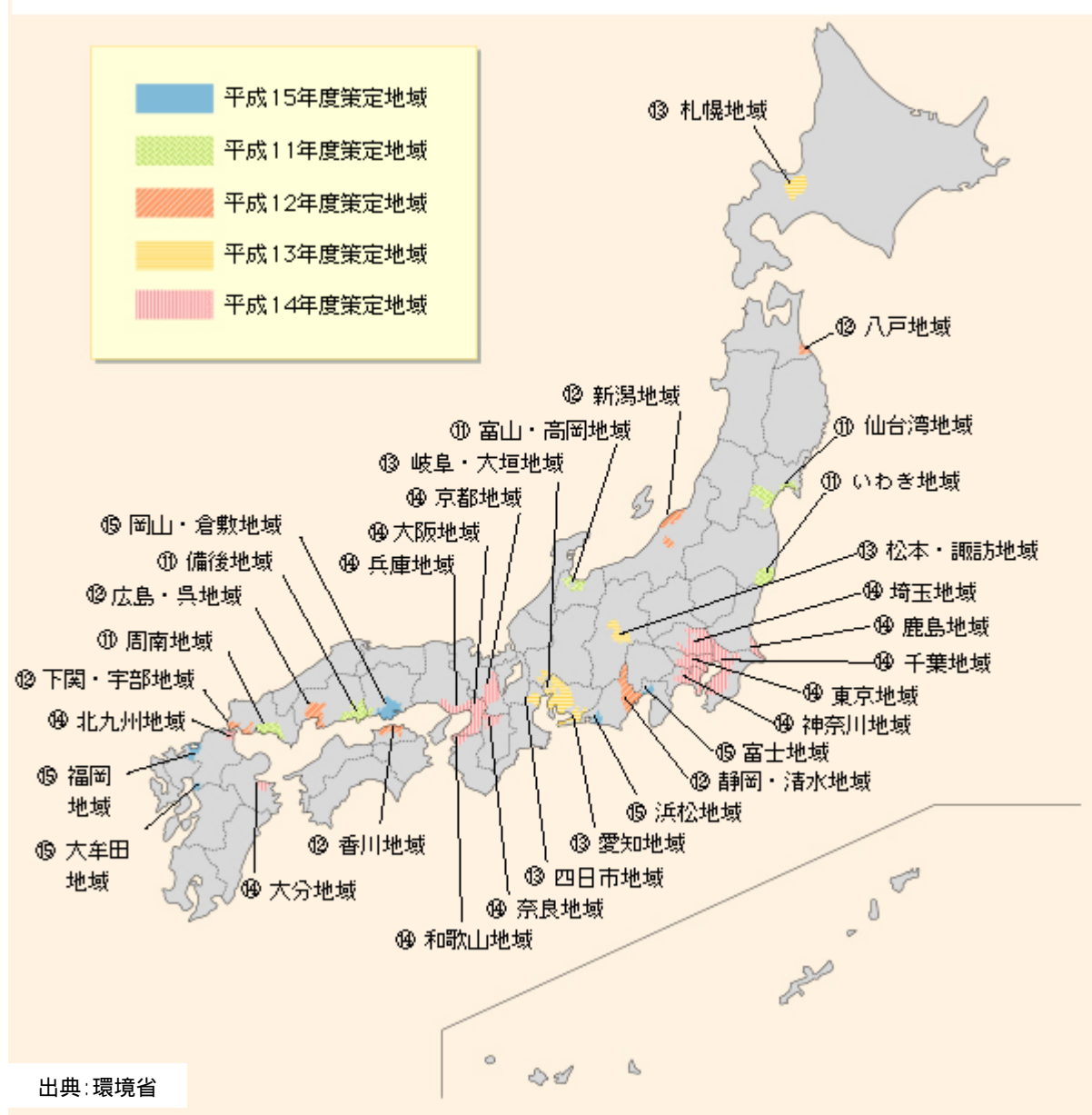


出典：環境省『第5回自然環境保全基礎調査「植生調査」(1999)』データより作成

7. 環境対策全般

公害防止計画策定地域図(現行計画)

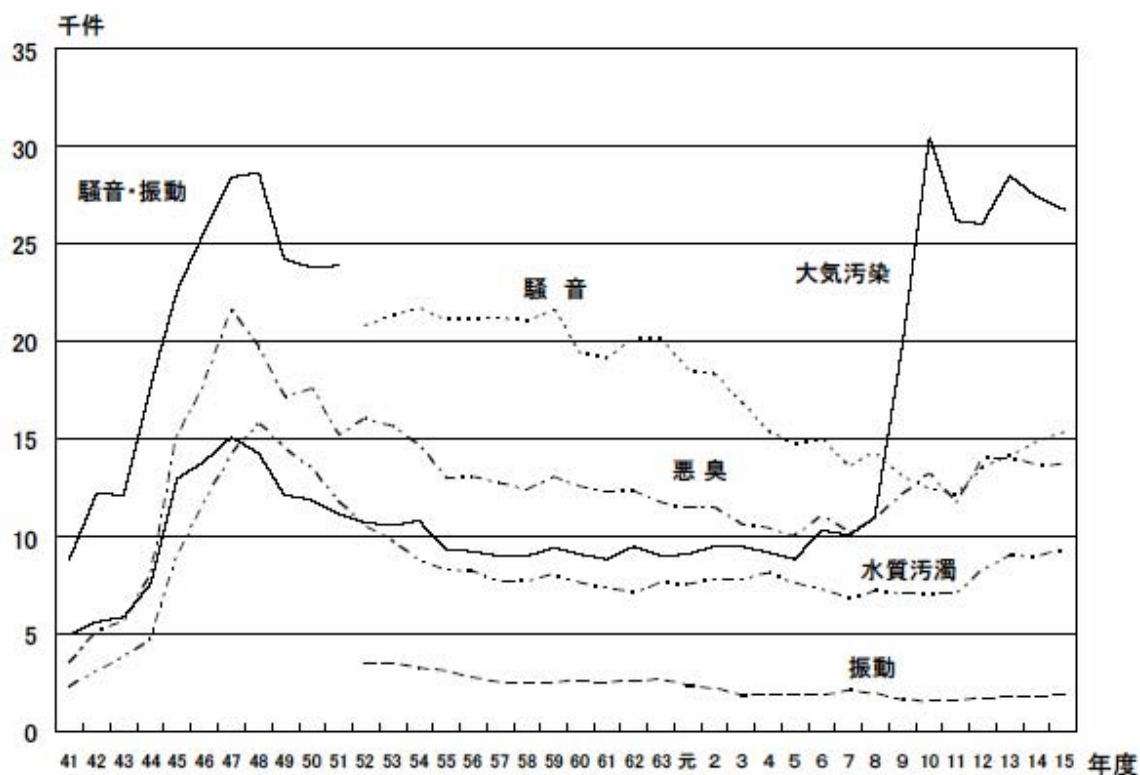
平成15年10月末現在、新たに策定された5地域を含め、全国で33地域が策定している。



典型7公害の種類別苦情件数の推移

(昭和41年度～平成15年度)

平成15年度において、典型7公害の苦情件数では大気汚染が最も多く、2年度連続して減少したが、全体の約4割を占める。また、他の6公害は増加している。



(注) 1 土壌汚染及び地盤沈下は苦情件数が少ない(平成15年度は計370件)ため、表示していない。
 2 騒音と振動は、昭和51年度以前の調査においては「騒音・振動」としてとらえていた。

出典:公害等調整委員会『平成15年度公害苦情調査結果報告書』